

相愛大学人文科学研究所規程

(総則)

第一条 相愛大学学則第五二条に基づき、本学に付属研究・教育機関として相愛大学人文科学研究所（以下、「研究所」という）を置く。

(目的)

第二条 研究所は人文科学及びその隣接領域の研究並びに普及をはかることを目的とする。

(事業)

第三条 研究所は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- 一 各専門分野における学術の研究
- 二 研究会、講演会の開催
- 三 共同研究調査
- 四 委託研究調査
- 五 紀要、その他必要な出版事業
- 六 その他、研究所の目的達成に必要な事業

(部門)

第四条 研究所は、事業の遂行が必要があるときには、専門別の研究部門を設けることができる。

(組織)

第五条 研究所は所長の他、下記の所員を置くことができる。

- 一 研究員 若干名
- 二 研究所助手 一名
- 三 事務職員 一名

(所長)

第六条 所長は研究所を代表し、これを統括する。

二 所長は教授会の議を経て学長が任命する。

三 所長の任期は二年とし、再任を妨げない。

(研究員)

第七条 研究員は本学の専任教員の兼任者によつて構成される。また必要に応じてその他の研究員を置くことができる。

(運営委員会)

第八条 研究所に運営委員会を置く。

二 運営委員会は、所長、研究員及び人文学部主任会構成員をもつて組織する。

三 運営委員会は、研究所の運営維持等について審議する。

(改廃)

第九条 本規程の改廃は運営委員会の発議に基づき、教授会の議を経て、学長が行う。

附則 この規程は平成一六年四月一日から施行する。

附則 本改正規程は平成一七年四月一日から施行する。

附則 本改正規程は平成一八年四月一日から施行する。

〔集 報〕

平成二十二年度相愛大学公開講座

テーマ「大阪から考える」

場所・教室(時間) 南港学舎・R四〇一、本町学舎・講堂(午後二時から四時)

日程・題目・講師

二〇一〇年九月四日(土)

宗教と芸能 ―仏教と上方落語―

本学教授 釈 徹宗

九月十一日(土)

大阪の全盛期

本学教授 千葉真也

九月十八日(土)

古代仏教法会の素晴らしさ ―四天王寺聖霊会舞楽大法要について―

本学准教授 小野 真

十月二日(土)

大坂の学 ―川、島、商、人―

本学教授 呉谷充利

十月九日(土)

平安遷都後の難波地域

本学教授 山本幸男

人文科学研究所主催 公開研究会

二〇一〇年十二月十五日

相愛大学南港学舎にて

〔研究発表〕

ばかし表現「とか」についての考察

中国・浙江工業大学外国語学院

日本語科専任講師 劉 曉傑

人文学部外国人研究員として来日された劉曉傑氏をむかえて、右記の表題のもと、特別公開研究会を開催した。学生の参加者も加えて人文学部教員との活

発にして熱心な討議が行われた。日本語という言葉の特性について外国人が日本語で発表し、我々日本人と日本語で微に入り細に入った討論をする。学問は国境を越えるという醍醐味を味わった幸福な時間であった。なお、発表の主旨は、本号に掲載されている。

国際学術シンポジウム

二〇一〇年九月八日・九日・十日

中国・東北大学(遼寧省 瀋陽)にて

〔テーマ〕

融合共生・インタラクション―第2回中日文化比較研究国際学術シンポジウム

主催 (中国) 東北大学中日比較文化研究所

(日本) 日中人文社会科学学会

(日本) 相愛大学人文科学研究所

右の国際学術シンポジウムに、人文学部から山本幸男、孫久富、鳥井正晴が参加した。東北大学関係者からは、この上ない丁寧な歓迎を受けた。

国際学術誌発行

二〇〇九年十二月発行

〔書名〕 中日文化比較研究論集(第一輯)

〔編者〕 主編 王 秋菊

副主編 王 岩

王 健

監修 山本幸男

鈴木徳男

孫 久富

〔発行所〕 (中国) 東北大学出版社

右論集の発行は、相愛大学人文科学研究所の助成による。

目 录

- 融合、共生、互动——中日文化比较国际学术研讨会致词……………薛冀成(1)
 融合、共生、インタラクション
 ——中日文化比較国際フォーラムにおける挨拶……………松本盛雄(3)
 中日文化比較国際シンポジウム開会式における挨拶……………吉田保(5)
 中日文化比較国際シンポジウム開会式における挨拶……………孫久富(8)

基調演説

- 中日文化: 比較、交流と共建……………彭定安(15)
 以东北大学为信息基地共同构筑东亚文化圈之共生模式……………青木五郎(25)

部会 A: 文学文化研究

- 東アジアの中の『万葉集』……………梶川信行(33)
 《源氏物語》中和歌的中文翻譯……………杜凤刚(49)
 月のロマンス……………孫久富(55)
 中日コミュニケーションにおける摩擦の原因について……………陳岩(77)
 中国故事和歌二題……………鈴木徳男(88)
 日中比較研究と正倉院文書……………山本幸男(105)

- 収入格差から見た日本・新自由主義経済政策およびその
 動向……………王海濤 譚曉軍(304)
 近代の中日・日中間における科学技術の地位逆転要因に
 関する解析……………王秋菊(311)
 考证中日建交过程中的历史问题及其认识差异……………毕克寒(322)
 『中体西用』と『和魂洋才』の比較研究……………殷国梁(338)

中日文化比较研究论集

(第一辑)

主编 王秋菊
 监修 山本幸男
 鈴木徳男
 孫久富



- 大伴坂上郎女の賀茂神社奉拝……………野口恵子(116)
 日本語コミュニケーション能力を高める教授法の
 研究……………王岩 馬小力(122)
 森鷗外と『高瀬舟』の庄兵衛、喜助……………陳永岐 李宗騰(138)
 トータル学習としての外国語学習(1)……………山田高志郎(152)
 日本語借用語とさられている「医学」の
 語源について……………王岩 馬賽 張永娟(166)
 日本茶道の性格を成す精神的要素をめ
 ぐって……………趙芸 唐娜 楊雲冰(179)
 中秋節をめぐる習俗の中日比較
 研究……………李升太 宋菲菲 孫新新(188)

部会 B: 科技文化研究

- 近代西欧数学の中日比較……………佐々木力(207)
 封建的人間、資本主義的人間および共產主義的人間の問題
 について……………大西 広(234)
 技術伝播と文化整合……………陳凡(242)
 居住行為様式の変化と住宅環境の変化で生じる衝突……………羅玲玲(255)
 大学の使命・大学の精神及び大学の文化についての試論……………孫雷(276)
 日本人の精神基盤形成に及ぼした中国仏教と儒教……………丸川雄浄(283)
 中国と西洋の伝統価値基準の下での『道を以て術を駆す』
 及びその影響……………王健(293)

編集後記

今年の公開講座のテーマは「大阪から考える」であった。東京へのあらゆる国家機能の一極集中が指摘されて久しい。その状況の中で、ことさらに東京以外の都市からというパースペクティヴでもって思索することは、周辺が中心を捉えなおすという意味を持つ。しかし、畿内の中心である大阪は単なる一周辺都市ではない。かつて日本の中心であり、日本の文化の基底を決定づけた場所でもある。とりわけ宗教においては、大和朝廷が継承して来た神道的思考と外来宗教である仏教的思考が融合し、その後の日本の精神世界の在り方の基盤を形成した場である。また、我々浄土真宗の宗門校にとっては、大坂は、蓮如によつて本願寺が建築され、浄土真宗が飛躍的に広まった時期の中心地として、最重要地の一つである。かつての精神世界の中心であり、かつ後世を把握してきた基盤を形成した場所、そして現在は周辺になりつつある場所、それが大阪であるが、ここから思索をすることは中心と周辺のダイナミズム、あるいは中心が規定した基盤の歴史性を考察する重要な意義を持っている。一連の講座は、いずれもそういった思索を促すテーマであったといえるであらう。

(小野)